高橋広次教授　略歴・著作目録

略　歴

1948年10月	大分県杵築市に生まれる
1967年 3月	大分県立杵築高等学校卒業
1967年 4月―1971年 3月	九州大学法学部法律学科卒業
1971年 4月―1973年 3月	九州大学大学院法学研究科修士課程修了
1973年 3月	法学修士（九州大学）
1973年 4月―1974年 3月	九州大学法学部助手
1974年 4月―1977年 3月	九州大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学
1977年11月	法学博士（九州大学，第4号）
1977年 4月―1978年 3月	九州大学法学部助手（再）
1978年 4月―1981年 3月	南山大学法学部講師
1981年 4月―1992年 3月	南山大学法学部助教授
1985年 4月―1986年 9月	西ドイツ国・フライブルク大学法学部留学
1991年11月―2009年11月	日本法哲学会理事
1992年 4月―2004年 3月	南山大学法学部教授
1994年 4月―1997年 3月	南山大学法学部法律学科長
1994年 4月―1997年 3月	南山大学大学院法学研究科専攻主任
1994年 4月―1998年 3月	南山大学評議会評議員
1997年 4月―2002年 3月	南山大学社会倫理研究所所長事務取扱
2004年 4月―2011年 3月	南山大学大学院法務研究科教授移籍
2011年 4月―2017年 3月	南山大学法学部教授（再）
2017年 3月	同退職

主要著作目録（翻訳と書評は除く）

著　書

『ケルゼン法学の方法と構造』（単著）　九州大学出版会　1979 年 10 月

『新ケルゼン研究』（共編著）　木鐸社　1981 年 11 月

『現代社会とキリスト教社会論』（編著）

南山大学社会倫理研究所　1998 年 3 月

『法哲学入門』（共著）　成文堂　2002 年 3 月

『環境倫理学入門――生命と環境のあいだ』（単著）　勁草書房　2011 年 9 月

『アリストテレスの法思想――その根柢に在るもの』（単著）

成文堂　2016 年 2 月

論　文

「ケルゼン・ザンダー論争とその展開」　『九大法学』第 34 号　1977 年 9 月

「純粋法学における法規範概念とその批判」

『法哲学年報』（有斐閣）　1978 年 11 月

「純粋法学における構造問題とその推移」

『法政研究』第 44 巻第 2 号　1978 年 12 月

「『存在法』より展開された自然法論の根本問題」（(一)―(四･未完)）

『南山法学』第 3 巻第 3 号，第 4 巻第 1 号，第 4 巻第 2 号，第 4 巻第 4 号

1979 年 11 月―1981 年 3 月

「純粋法学の根拠への帰向」（1―2･完）

『法の理論』（成文堂）　1981 年 9 月―1982 年 9 月

「純粋法学と法哲学との対話――大塚論文の批判に応えて――」

『法の理論 3』（成文堂）　1983 年 11 月

Das “Natürliche Recht” bei Aristoteles,

Archiv für Rechts- und Sozialphilosophie（Beiheft/30）　1985 年 11 月

「『ポリス－内－存在』について」

『自然法――反省と展望』（創文社）　1987年　3月

「思慮――法実証主義と自然法論の間？」

『法と国家の基礎に在るもの』（創文社）　1989年11月

「環境倫理学と現代――自然法論のUmdenkenに向けて」

『自然法の多義性』（創文社）　1991年12月

「プラクシスへの問いの閉塞」『南山法学』第16巻第3・4号　1993年　3月

「プラクシスへの問いの回復」『法政研究』第59巻第3・4号　1993年　3月

「環境の法哲学への序論」　『南山法学』第18巻第4号　1995年　2月

「人間の尊厳と自然法論」

『自然法論における存在と当為』（創文社）　1996年　1月

「環境問題の前の法哲学」　『法哲学年報』（有斐閣）　1996年10月

「環境倫理学における共同善」

『変動する世界における共同善』（南山大学社会倫理研究所）　1997年　3月

「自然なき自然法論？」（(一)―(四・完)）

『南山法学』第20巻第3・4号，第21巻第1号，第24巻第3号，第24巻第4号　1997年　3月―2001年　3月

「反省における社会倫理学」

『社会と倫理』第5号（南山大学社会倫理研究所）　1998年　3月

The Common Good in Environmental Ethics,

In: *Beiträge zum Naturrecht*（Johaness-Messner-Gesellschaft）

1998年　9月

「アルトゥール・カウフマンの法存在論におけるLexとJusとの関係について」

『法思想の伝統と現在――三島淑臣教授退官記念論集』（九州大学出版会）　1998年11月

「未来世代への責任と種の法理」

『社会と倫理』第6号（南山大学社会倫理研究所）　1999年　2月

「大衆社会における大学教育」

『社会と倫理』第7号（南山大学社会倫理研究所）　1999年　7月

Die Ontlogische Begründung der Verantwortung gegenüber zukünftigen Generationen,

In: *Beiträge zur Politischen Wissenschaft*（Band 105） 1999 年 11 月

「 輓近遺伝子論議の一素描 」

『社会と倫理』第 8 号（南山大学社会倫理研究所） 2000 年 1 月

「遺伝子問題と種の法理」

『人間の尊厳と現代法理論――ホセ・ヨンパルト教授古稀祝賀』（成文堂） 2000 年 3 月

Plurality of Cultures and Natural Law,

In: *Pluralism and Law*（Kluwer Academic Publishers） 2001 年 6 月

「家族倫理の新しい展開――高齢社会における倫理と政策」

『社会と倫理』第 13 号（南山大学社会倫理研究所） 2002 年 6 月

「自然保護論と憲法改正」 『南山法学』第 26 巻第 3・4 号 2003 年 3 月

「自然保護と種の法理」

『自由と正義の法理念――三島淑臣教授古稀祝賀』（成文堂） 2003 年 7 月

「『中』と思慮の法哲学――アリストテレス法・国家思想研究」（(一)―(二・完)）

『南山法学』第 27 巻第 3 号，第 27 巻第 4 号 2004 年 2 月，3 月

「ノイマン教授『人間の尊厳という原理』への一コメント」

『社会と倫理』第 19 号（南山大学社会倫理研究所） 2006 年 5 月

「アリストテレスは自然法論者か」

『南山法学』第 31 巻第 1・2 号 2007 年 9 月

「前理性的自然本性の道徳的意義――ローンハイマーの自然法観」

『南山法学』第 32 巻第 3・4 号 2009 年 3 月

「アリストテレスにおける帰責の概念について」

『南山法学』第 33 巻第 2 号 2009 年 12 月

「アリストテレス－トマスにおける政治的知慮の概念について」

『南山法学』第 33 巻第 3・4 号 2010 年 3 月

「アリストテレスにおける『正』概念の豊意性」
『南山法学』第 34 巻第 1 号　2010 年 12 月

「アリストテレス以後の『配分的正』観念の展開」
『南山法学』第 34 巻第 2 号　2011 年 2 月

「自然法論が環境倫理学から学ぶもの」
『南山法学』第 36 巻第 1 号　2012 年 11 月

「宗教と自然法」
『宗教法制研究所紀要』第 53 号（愛知学院大学）　2013 年 2 月

「アリストテレスにおける交換的正の諸問題」
『南山法学』第 37 巻第 3・4 号　2014 年 6 月

「アリストテレスの取財術について」（1―5・完）
『南山法学』第 38 巻第 1 号，第 38 巻第 2 号，第 38 巻第 3・4 号，第 40 巻第 1 号，第 40 巻第 2 号　2014 年 9 月―2017 年 1 月